
光の剣

空風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光の剣

【Nコード】

N9899Y

【作者名】

空風

【あらすじ】

神様に殺されて転成なんてあるわけ無いと思っていた。実際はあった訳だけど。転成主人公が鋼殻のレギオスの世界でとりあえずは生きようとする話です。原作介入しつつね。

第1話（前書き）

どうも、もうひとつがあるのにやっちゃった空風です。

こちらもノロノロ更新になるでしょうが、どうかお付き合下さい。

第1話

「じいじい」

彼の回りに有るのは、白、白、白、白、白、白。

前後左右上下、全てが白い世界。

（夢、かな？）

夢の中にいる割にはスムーズに思考出来が、とりあえず彼はこれが夢だと結論づけ、

（もうひと眠りしよう）

と、体を横たえ、目を閉じた。

+++++

「ほら、起きるのじゃ」

50代前半だろうか、髪に白いものが交ざった長身の男が寝ている彼を揺さぶる。

「ん・・・・・・・・何ですか・・・・・・・・って、先生!？」

彼は自分を起こしている相手の顔を見た瞬間、跳び起きた。

それもそのはず、かつて中学時代に剣道部顧問として3年間お世話になり、一番尊敬している中谷先生その人だったからだ。

「お久しぶりです、先生!」

敬意を込めて挨拶した彼に返ってきたのは予想外の言葉だった。

「済まないが、わしはその、『先生』ではないぞ」

「えっ?」

「わしは、神じゃ。この姿は君の記憶から借りているだけじゃ」

「はい?」

「うん？理解しておらんような顔をしとるの。」

「えっと、カミって、その、天照大御神とかイエス・キリストとか？」

「いかにも」

自称神様は鷹揚に頷く。

「えーっと、マジ、ですか。」

「マジじゃ」

「失礼致しました」

直ぐさま正座をし、居住まいを正す。こちら辺は身に染み込んだ反射に近い。

「そこまで畏まらんでよい。それに君がここにおける原因はわしにあるからのう」

「原因？この真っ白な空間の事ですか？」

「そうじゃ。実はのう、君は死んでしまったのじゃ」

いきなりの爆弾発言である。

「はい？」

「だから、君は死んでしまったのじゃ。わしの手違いでの」

「・・・・・・・・」

「それで、じゃ。君にはお詫びと言ってはなんだがの、好きな世界に転成してもらおうと思ったのじゃ」

「待ってください、オレは、死んだんですか？」

表情が抜け落ちた顔で呟くように問う。

「わしのミスでの」

「……………あんたが神様や中谷先生の姿じゃ無かったら全力で殴ってましたよ」

そう言っただ怒りの籠った目で睨む。神は軽く目を逸らした。

「元の世界には戻れないのですか？」

最後の望みを託すかの様に聞く。しかし、神はそれを切り捨てた。

「無理じゃな。既に肉体がもたんのじゃ」

「では、僕のとる道は転成しかない？」

「そうじゃ」

重苦しい沈黙が二人を包む。

それを断ち切ったのは彼だった。

「分かりました．．．．．その話、お受けします」

「希望の世界はあるかの？」

「．．．．．『鋼殻のレギオス』で」

彼は一瞬の逡巡の後言った。

「いくつか願いを聞くつもりなのじゃが、どうするかの？」

「まず、剽の総量をレイフォンより少し少ない位に。二つ目は、今までの記憶を引き継ぐ事。三つ目は、好きな時に、現実や空想の武器のデータ。四つ目はそれらのデータを入れた、人工知能を持つ水晶．．．．．これぐらいでしょうか。」

「まっ、なんとかなるぞ。ならば、直ぐに転成するが、良いかの？」

「あっ、待って下さい！．．．．．って出来ますか？」

「．．．．．そういう事が。分かった、しかと伝えよう。」

「ありがとうございます」

最後の頼みを伝えた彼は、どこか晴々とした顔をしていた。

「では、改めて良いかの？」

「はい。思い残す事がありますが、とりあえずは」

「では、次の人生では思い残さないようにの」

「はい」

「では、さらばじゃ」

そう言つて神はパチン、と指を鳴らした。それに連動し、彼の足元の空間が消失し、落ちて行つた。

「これってお約束なのか？スカイダイビングはいつかしたかったけど、こりや怖いってーーーーっ！」

彼の声は反響とドブラー効果を残しつつ消えていった。

「行ったか………。ならば最後の頼みを実行しに行くかの」

そう呟き、神は消えた。

第1話（後書き）

試験的に三人称視点を意識しております。どうだったでしょうか？

感想、アドバイス、誤字脱字の報告等お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9899y/>

光の剣

2011年11月29日22時50分発行